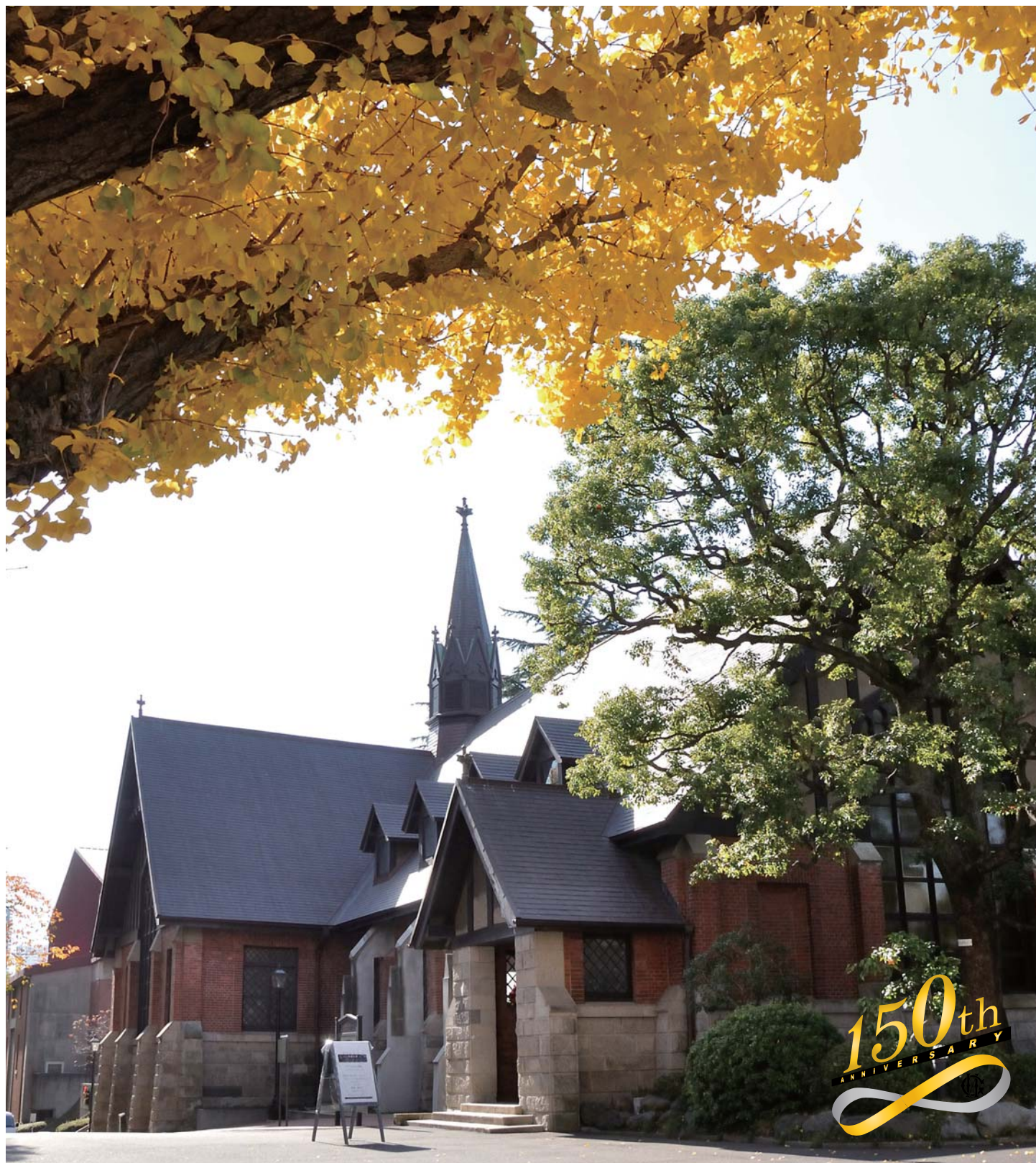


Meiji Gakuin Alumni Association News

明治学院同窓会 News

2013
DECEMBER

DO FOR OTHERS 第12号より抜粋



150th
ANNIVERSARY



明治学院同窓会
Meiji Gakuin Alumni Association

学院創立150年と 同窓会110年を迎えて

同窓会 企画委員長 石川 謙

明治学院は、ヘボン先生の英語塾創立から150年を。同窓会は、先生の後継者たる井深梶之助氏の創設から110年を迎えました。大変喜ばしいことと思っております。

同窓会では、この一年を、実り多きものとするために、『記念行事実行委員会』を60名の人員で立ち上げ、学院所属の各学校や大学校友センターからのご協力・ご支援を賜りながら、学院の伝統を踏まえながらも、各種の斬新なイベントを開催しております。

手始めは、5月25日、『明学落語会』でした。明治学院は、意外にも、現在、噺家を8人輩出しており、関東では、比較的多い学校として知られるようになりました。今回は、スケジュール調整が間に合った、柳家権太楼師匠やフジテレビの『R-1ぐらんぷり』で決勝に残ったこうもり君など、

6人が出演するという豪華な講演会となりました。

また、サプライズ企画として、紋付、袴姿の学院長、同窓会長による『記念口上』が行われ、観客300名の驚きを誘いました。

終演後、関係者（実行委員・落研OB・落研現役など）で、それぞれの学生生活当時とは、風情の変わった目黒に繰り出し、打上げ会を催し、「あの頃は、どこどこがこうこうで、何何した」とか、「今後は、8人全員でやって」などと軽口を飛ばしながら、楽しいひと時を過ごし、散会となりました。皆様には、感謝申し上げます。

続いて、6月19日。学院OBで、元ミキモト代表取締役の森田則行氏（後日、同窓会東京ブロック港・目黒支部支部長就任）を招き、『真珠とダイヤモンド』と題した講演会を開

催いたしました。

氏は、一般募集でミキモトに入社。明学で培った英語力で、世界のファーストレディや王族・女王と接見し、一族や銀行関係者以外で、初の社長に。そして、後進に譲りスバツと退社。

この講演は、現役学生をターゲットとして『これから社会へ出て行く学生の心理的な不安と、既成概念の呪縛を取り除き、冷静に自分自身を見つめる機会としたい』との企画でしたが、我々スタッフの努力至らず、講演内容を周知できず、期待していた参加者数を得られず、講演者に、申し訳なかったと反省し、今後に生かして生きたいとの感想を持ちました。

続く講演会は、7月17日。『明学卒社会企業家の挑戦』と題し、04年経営学科卒業でフェアスタート代表取締役の永岡鉄平氏でした。



明治学院創立150周年記念 明学落語会



第1回 学院創立150周年記念同窓会事業実行委員会

氏は、リクルート出身。その後、就職支援会社の設立に参画。法人営業、登録者へのキャリアアカウンセリング、広報、採用担当と幅広い業務を兼務し、会社の発展に貢献しました。が、ある時、知ります。児童養育施設等の子どもたちが、親の愛情を満足に受けられず『18歳を迎える」と施設を出されて、いきなり社会へ。そして、結果、ワーキングプアに陥り、挫折していくことの多さを。これは、「かわいそうな」存在ではなく、「もつたいない」存在。今までの「福祉」の視点からしか捉えてこなかった子どもたち。これを「企業」の視点から「集団生活で身に着けたコミュニケーション力や協調性」「自立心」や「就労意識」といった強みを可視化し、企業へ前向きなプランディングを造り出して就労支援を行えないかと。

このビジネスモデルプランは、2010年、内閣府地域社会雇用創造プランコンテストでグランプリを受賞します。

感傷的な態度を排し、人材の本質

を捉えようとした見事な結果と思います。

前回の反省を生かし、講演後の質疑応答を充実させたことで、熱心な学生からの質問が多く出され、有意義な時間であったと思います。

ここまでは、報告です。つまり、「そうだったのか」。行きたかったな。この世界です。

これからお書きするのは、多分、この校友会報が皆様のお手に届いてから、間に合う情報です。

10月16日。JPホールディングスの山口洋（ひろみ）社長をお迎えして、『日本の保育を変える』と題して、講演を行います。

氏は、元証券マン。自らの体験と思考から、責任の重さを知り、社長業の中、保育のプロになるため、大学院に通い卒業。今にたどり着きました。待機児童、延長保育、保育士不足。どれも大切なテーマですし、これからの保育園を考えていく上で、株式会社形態での運用が、どう評価されて、根付いていくのか、講演に期待したいと思っています。

次に控えるのが、11月23日の『音楽礼拝』と『ホームカミング』です。

音楽礼拝では、イエスの生涯を音楽を通して感じる企画となっております。礼拝と言うと、学院生でありながら、構えてしまう傾向にあります。が、ジャズ的要素、ゴスペル風な部分もあり、みんなで楽しめるように構成しました。もちろん、長谷川先生による荘厳なバイプオルガン演奏もあります。是非、音楽礼拝からご参加ください。

音楽礼拝に引き続き、今や、明学でのクリスマスを迎える風物詩となっている、前日に点灯されたツリーを記念館前広場でごらんいただきます。

そして、メインイベントの『学院創立150周年記念ホームカミング』が、パレットゾーンで行われます。ゲストには、学院OBで、デビュー44周年を迎えたブレッド&バターの岩沢幸矢（さつや）さんと、やはりOBでデビュー40年になる南佳孝さんをお迎えして、ミニコンサートが予定されております。どう

ぞ、旧交を温め、新しい友人を作ってください。

今、同窓会では、各学校の交流はもちろんのこと、地域支部活動の充実を、図っております。地域支部の活性化は、同窓生同士をつなぐだけではなく、今後、明治学院を目指してくれる若い生徒さんに、ヘボン先生の偉業を知ってもらい、明学受験を目指してもらえ一助となりたいと考えます。

明治学院に来て良かった。と、若い世代に伝えるのは、学校だけの責任ではありません。同窓生みんなが担うべきものと考えます。

そのためには、地域活動から、職業活動へ、文化活動や、経済活動を通して、その範囲を広げていくことも重要かと思えます。

同窓会は、この150周年記念行事を通じて、そして、150周年を基点として、次の50年を視野に入れて、学校法人、大学校友会との連携、連帯を保ちつつ、みなさまと一緒に、前に進んでいくことを切に考えております。

卒業生は明治学院の応援団

大学同窓会会長
安田正克

明治学院創立150周年を迎え

たことを心よりお祝い申し上げます。文久3年（1863年）、ヘボン夫妻が横浜で英学塾を開塾しました。これが明治学院の前身となるヘボン塾です。当時の日本は、開国が攘夷で国論が二分され、まさに世情騒乱の時代でした。これよりさかのぼると4年、安政6年（1859年）に香港、上海を経てヘボン夫妻は初めて日本の土を踏みました。

アメリカでの成功をすべてかなぐり捨て、幕末の混乱期の日本へやってきたヘボン夫妻のフロンティアスピリット、そして「Do for Others」精神を体現する志は、明治学院のDNAとして深く刻み込まれているはずです。いや、これから先の100年後、150年後も、明治学院が決して失ってはいけないものです。

しかし、昨今の明治学院に何か物足りなさを感じている同窓生も少な

くないのではないのでしょうか。とくに大学は少子化のあおりを受け、どこも生き残りに必死です。勿論、明治学院大学でも様々な取り組みが行われていますが、その成果はなかなか見えてきておりません。学院創立150周年を単なるメモリアルイヤーで終わらせてしまおうのではなく、この機会にもう一度明治学院の原点を取り戻す努力をしてみようではありませんか。2013年はまさに、それにふさわしい年であると思います。

「文」においては、和英辞典を編纂し、さらにヘボン式ローマ字を考案したヘボン博士の偉業を受け継ぐ教育を、また、多くの逆境や困難にも負けず医療活動を通じて日本人の命と健康を助けた「福祉」、「奉仕」の心を培うような明学らしい教育を確立してほしいと思います。明学でなければ学べない、だから明学にぜひ行きたいと思ってもらうことが大切

だと思っています。

一方、「武」においては、大学名がマスコミに登場する比率は圧倒的にスポーツが高いのです。野球然り、ラグビー然り、陸上競技然り。人気の駅伝などは、紙面の一面を飾ることもめずらしくありません。われわれ同窓生は、たとえ新聞の片隅でも「明治学院」の文字を目にすると心躍るものなのです。とくに中央の情報が届きにくい地方の同窓生は、なおさら母校の活躍はうれしいものです。しかし、現在の明治学院では、そんな同窓生の思いは叶わぬ夢なのでしょうか。

150周年の今年は、スポーツプロジェクトを中心に記念イベントが開催されています。サッカー部は、東日本大震災被災地の少年たちを招いてサッカークリニックや記念試合を、アメリカンフットボール部は、青山学院大学と近畿大学と記念試合を行いました。なかでもヘボンフイ



ールドで行われた試合は、戸塚市民との交流など地域ぐるみのスポーツイベントとして大成功を収めました。また、ラグビー部は伝統校の慶應義塾大学との記念試合で、大方の下馬評を覆す番狂わせ（失礼）を演じ、対抗戦グループの強豪・慶応義塾大学相手に21対17で大勝利を収めました。

150周年のこうしたイベントを通じて、さらなる100年を目指し、共に前進していこうではありませんか。卒業生は明治学院の応援団です。

「明治学院中学校・高等学校同窓会 (白金会)」の名称変更について

明治学院中学校・高等
学校同窓会(白金会)

高橋敏幸

1997年、当時の坂仁高等学校校長の呼びかけの下、私も高等学校卒業生の有志が集まり、中学・高等学校の卒業生を主体とした同窓生組織の母体を作りました。明治学院には全学院を統合した形で「明治学院同窓会」が存在していましたが、その組織は残念ながら大学の卒業生を主体としたもので、中学校・高等学校を卒業して、他校に進学したり、社会人になられた方々には、「同窓会」はなじみの薄い存在感のないものでした。

そして、1998年2月28日、高等学校体育館において第1回の「Come Back to 白金」を開催し、多くの同窓生が集い、懐かしく親交を深め再会を誓いました。その後、本格的に高等学校同窓会組織を発足させ、多くの卒業生の時間と協力をいただき、2000年6月に設立総

会をチャペルにおいて開催し、ついに「明治学院高等学校白金会」として活動を始めました。諸先輩方が何度も練り直し、練り返し考え、会則規則等を作り上げ、何とか同窓会の形が出来上がりました。2006年に「明治学院高等学校白金会」が「同窓会本部」の一員になったことにより、「明治学院高等学校同窓会(通称・白金会)」と名称を変更しました。今年、明治学院高等学校同窓会(白金会)が発足して13年になります。そして、明治学院は創立150周年を迎えました。卒業生一人一人の思いを受け継ぎながら、今日の学院の姿があると思われます。中学校を卒業されて、明治学院の上級校に進学されなかった多くの卒業生から、「明治学院高等学校同窓会」では我々の居場所がない。「何とか、同窓会に『中学校』を入れて貰えない

だろうか」という苦言・提案が、多く寄せられました。今年2013年6月29日の明治学院高等学校同窓会の年度役員会において、同窓会の名称変更案が議題となり、「明治学院中学校・高等学校同窓会」と承認されました。この、明治学院150周年の記念すべき年に新たに「私ども同窓会」が一步踏み出すことが出来る事に感謝です。私も中学・高等学校で学んだものは、あらゆる教育活動の上には聖書があり、チャペルで祈りを行い、日々生きるこの意味を学びました。今こそ、卒業生に誇りを持って母校を再訪して貰いたいと思います。

明治学院高等部同窓会」は大学校友会構想の外にいる事になります。早く、「オール明治学院校友会」となつて頂きたいと我々は切に願っております。どうか一日も早い実現をお願いするものです。

昨年の8月、高等学校生徒は150周年記念事業の一環として、東日本大震災被災地を訪ねました。ハイグリー部(生徒36名)・生徒会(14名)・新聞局(8名)生徒総勢58名と引率教員10名による3班に分かれての現地入りです。演奏旅行やボランティア活動などして地元の方々から大変喜ばれてまいりました。今年も、70名の生徒が8月後半から宮城県に入ります。頼もしく優しい後輩たちを、今年も私も明治学院中学校・高等学校同窓会は応援していく所存です。



母校創立50周年記念行事開催

明治学院中学校・東村山高等学校同窓会会長 森野光生

明治学院 150 周年おめでとう
ございます。同時に母校創立50周年
を迎えましたことを心からお祝い申
し上げます。多くの方々に支えられ
て今日を迎えられましたことを、同
窓会としても大きな喜びとして関係
各位に感謝申し上げます。

さて、母校創立50周年については
早くから何をやるのか、どんなこと
を企画するか役員会では話し合っ
てきました。私たち東村山同窓会では、
去る3月20日（水・祝）に学院や学
校に先駆けて、東村山キャンパスで
次のような構成で50周年記念行事を
行いました。第一部「礼拝」は16期
生中野実牧師（東京神学大学教授）
に説教をしていただき、引続き第2
部では1期生山根一眞氏（ノンフィ
クション作家・獨協大学特任教授）
による「日本の未来へのシナリオ」

3・11宇宙、深海、そして環業革命
へ」と題して話していただきまし
た。当時の武藤富男先生の授業など
にも触れながらの話しに参加者は皆、
聞き入っていました。その後、創設

学ハンドベル、懇親会では高校ハン
ドベルと吹奏楽部の生徒諸君が演奏
をして下さり、会を盛り上げてくだ
さいました。

当時から約25年間歌われてきた校歌
の「石碑」の除幕式を、作曲者廣野
嗣雄先生（当時音楽科教諭・東京芸
術大学名誉教授）ご参列のもと、ラ
イシャワー館前行われ、現役合唱
部のみなさんとこの校歌を知る同窓
生が合唱しました。（作詞者は武藤
富男先生）この後、第3部は場所を
体育館に移して、司会を39期生で
TBSアナウンサーの加藤シルビア
さんに担当していただき、300人
を超える来賓、旧教職員、同窓生が
和やかに歓談し、それぞれ東村山時
代を懐かしく語り合っていました。
なおこの記念行事には、礼拝では中

約2年前からこの記念行事の準備
を始めました。まだまだ、私たち東
村山同窓会では数的にはスタッフが
不足しているのが現状ですが、今回、
行事のためのスタッフとしての協力
要請の呼びかけに、名乗りを挙げて
くださった同窓生が若干出てきたの
は今回のひとつの収穫であったと思
います。最近のネット社会では、多
くの人はtwitterやfacebookでコ
ミュニケーションを図っています。
こういった新しい方法も取り入れな
がら、同窓会の輪を広げて生きたい
と願っております。今後とも、同窓
会活動にご指導ご鞭撻のほど宜しく
お願い申し上げます。



同窓会ホームページが見やすく、使いやすいものになりました



同窓会ホームページトップ画面

約10年間、これまで一度も大きな変更なく更新してまいりました同窓会のホームページを今回、一新しました。

ホームページに求められることは「伝えたい情報、知りたい情報」がより多くの方々（同窓生）に伝わることにあります。

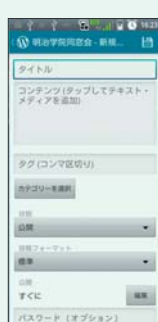
そのため、現在のニーズにあわせてパソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットなど、今後より身近になる端末でも見ることができ、

いつでもどこからでも新しい情報が容易に手に入るようにしました。

スマートフォンでの対応

パソコン用画面とは別にスマートフォンやタブレット、携帯電話で見やすいように最適化された画面を自動で表示するようにいたしました。

いつでもどこからでもスマートフォン、タブレットがあれば、情報をチェックすることができます。



スマホページ

レイアウトの刷新（最新の情報が一目でわかるようなレイアウト）

同窓会のイベント等の情報や、各支部の更新情報がトップページに表示されます。また、トップページのカレンダーで確認できます。

最新の情報コーナーと期限が過ぎた情報の収納場所を作ることにより整理された見やすい画面にしました。

各支部簡易HPの組み込み

簡易タイプのホームページを支部ごとに設定しました。

支部総会の年次総会やイベント等の報告のみならず、支部の年中行事を自由に掲載することができました。

しかも、更新された情報は、同窓会のトップページに自動的に掲載されます。

また「活躍する同窓生」を支部単位で掲載できるようにしました。



各支部ページ

メールアドレス登録システムの設置（支部単位）

支部総会や支部単位のイベントなど、支部会員にメールで案内し、出欠がとれるようになりました。

所属支部にメールアドレスをご登録いただければ、ご案内が届きます。

アルバム機能の設置

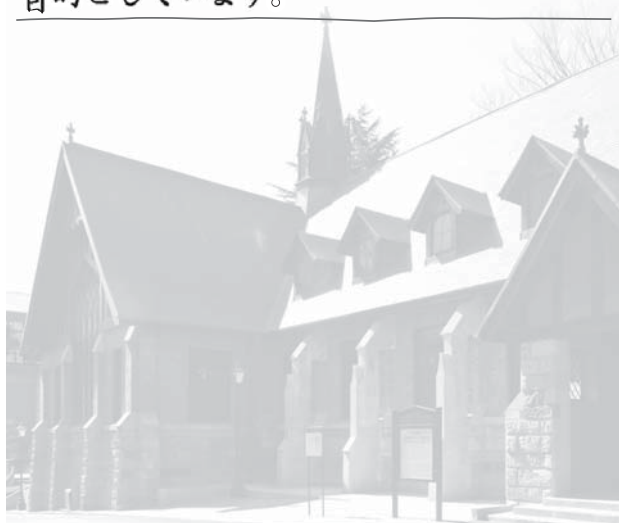
同窓会主催のイベントなど、ご参加いただいた方、またただけなかった方にもその時の様子がわかるよう、アルバム機能を付けました。

ホームページ上でイベント時の写真を常時閲覧することができ、なおかつ個人でプリントすることも可能です（支部簡易HPにもアルバム機能が付いています）。

ぜひ一度ご覧ください。検索は「明治学院同窓会」で。

（情報委員長 大井上進）

株式会社明治学院サービスは、
学校法人明治学院の100%出資会社です。
学校の周辺業務を事業化し効率的効果的な
各種サービスの提供を行い、
その収益を教育事業に還元することを
目的としています。



【主な業務内容】

◆人材派遣ビジネス

明治学院（明治学院大学、高等学校、中学校等）及び教育機関や他大学を中心に学校事務に特化した人材派遣を行っています。学校関連企業として相応しい質の高いサービスの提供に努めています。

◆明治学院白金チャペルでの結婚式

当事者のいずれかが、同窓生、現・元教職員、法人役員またはそれらの近親者の方であればお申し込みいただけます。本学はプロテスタントのキリスト教信仰を建学の精神としており、礼拝に準じる儀式としての挙式を行います。

◆学生総合保険・海外旅行傷害保険・火災保険・自動車保険（バイクを含む）・医療保険などの代理店業務を行っています。

◆白金校舎パレットゾーンの食堂・横浜校舎のインターナショナルカフェの運営管理をしています。

◆新入生・在校生に対するお部屋探し・住替えのご相談受付、明治学院大学女子寮「セブンレンス館」の運営管理をしています。

◆大学ロゴグッズ、バッハアカデミーのCD、自動販売機での飲料の販売をしています。



株式会社 明治学院サービス

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel 03-5421-1555 Fax 03-5421-1556

URL: <http://meijigakuin-s.co.jp/>

【お問合せ先】

明治学院同窓会事務局 〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37 TEL 03-5421-5190 (FAX 03-3441-0970) (事務取扱い時間 10:00～16:00)
<http://www.meijigakuin-dosokai.jp/>